

琉球 アロマと風水で すっきり

執筆/横川明子
(アロマ空間デザイナー・琉球
風水スクール「アムリタ」主宰)

今回は、琉球民家の台所と風水について解説します。電気、ガス、水道のない当時、風、光、水など自然界のエネルギーと調和するように、空間作りが行われてきました。悪い気を避け、良い気を取り込んで活用することが、命をつなぐ上で重要だったということが読み取れます。

火と風・空気を調節

王朝時代の伝統的な琉球民家では、台所は敷地の西側、プライベート空間にありました(イラスト参照)。全体的に開放的な造りとなっている琉球民家の中でも、台所だけは開口部が小さく、ほとんどが壁に覆われています。昔の住居では、火のコントロールを誤ると火災の危険があり、換気にも注意が必要でした。強い風に火がおおられることなく、



中村家住宅の台所。琉球民家の台所はほとんどが壁に覆われていて、開口部になっていたのは、カマド側の壁の窓や、動線的に必要な西側や南側の出入り口です

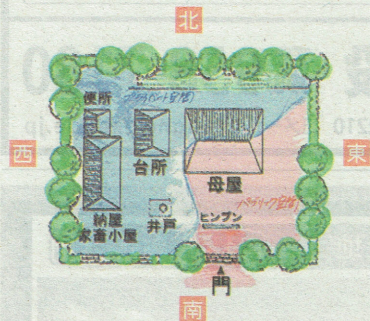
■ キッチン① 琉球民家の台所と風水

自然と調和し良い気取り込む

汚れた空気が適切に排出されるよう、風の流れを配慮し、カマドの向きや空間の開口部を慎重に考える必要があります。また、台所では棚を造り、屋根裏部分などを物置として使用。薪や鍋、食器などを保管してました。煙が上るカマドの上に造った火棚は、薪などを乾燥させるほか、舞い上がる火の粉が一気に茅葺にまで達することを防ぐ働きもあります。キッチンに収納するモノが多かったのは、今も昔も変わらないようです。

水は井戸や水がめを使用

水道の無い時代の沖縄では、水場は屋外にあり、井戸や水がめを利用してました。井戸の周りには琉球石灰岩などが敷かれ、ここで野菜や魚を洗いました。敷地の中でも低くなっている南西側にあり、排水の良さが配慮されています。首里など井戸の無い家では水がめを置き、



「伝統的な琉球民家の空間の区分け」青で色づけされている部分がプライベート空間(資料提供/和来龍)

防火と家族の健康祈る「火の神」

琉球民家の台所では、カマドのある場所に、火の神様をお祭りしました=写真。「ヒヌカン」「ビヌカン」「ピーヌカン」など、地方により呼称はさまざま。沖縄独特の信仰で、現代にも受け継がれています。火の神は、カマドの上後方に、



海から拾ってきた卵型の自然石3個を鼎立(ていりつ)して据え、前には香炉を置きました。ニライカナイからの来訪神であり、琉球の神は海から上がってきたということから、海を漂って海岸にたどり着いた石を、ヨリシロと言われています。現代では、台所に三つ石を置いているケースは少ないようですが、集落を守る地頭火の神や、グスク内にある火の神では、原型である聖石の三つ石を今でも見ることが出来ます。

湧き水をくんできてためて使っていました。水がめは主に、台所の出入り口付近に置かれました(左写真)。

このように、昔はコンロと流しはまったく別に置かれており、火と水が近くにある現代のライフスタイルでは、キッチンに対する風水の考え方も変化します。しかし、時代が変わっても琉球風水で最も重視するのは、光、風、水などの自然と住居の調和であり、その本質を大切にした上で、現代のライフスタイルにあつた心地よい空間に整えていきます。今回は、現代住宅の具体的な風水の実践法について、ご紹介いたします。(第4週に掲載)

よこかわ・あきこ / 東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アットアロマ社認定アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。琉球風水の講師や新築住宅などの風水鑑定を行っている。 ☎090-7729-1020
ホームページ <http://aromarine.jp>
ブログ <http://ameblo.jp/marine-sapphire/>

